

津波に耐えた「奇跡のコメ」が商品化～「大槌安渡ひとめぼれ」
ひょうたん島日記（2013.03.07）

<http://www.town.otsuchi.iwate.jp/docs/2014022400036/>

震災の時、大槌町安渡（あんど）地区に流れ着いた種もみが自生して実ったコメが、商品になりました。名付けて「大槌安渡ひとめぼれ」。津波に耐え抜いた「奇跡のコメ」が、ブランド化に向けて歩み出しました。

「大槌安渡ひとめぼれ」は、精米2合が1パックになり、1パック1,000円で売り出されています。パックは3種類あり、自生した稲を発見した大槌町の■■■■さんの名前や、■■さんがこのコメに寄せた詩がデザインされ、添えられています。

売り出したのは、「大槌安渡ひとめぼれ」のコメ作りを指導している遠野市内の「NPO法人遠野まごころネット」。副理事長の■■■■さんは「奇跡のコメは被災地に勇気を与えた。大槌町の復興のシンボルとして販路を全国に広げたい」と話しています。■■■■さんは「よくぞ育ち、商品化にまでこぎつけることができました」と感慨深げです。

■■■■さんは、震災の年の2011年の秋、津波で流された自宅の玄関脇で、自生している3束の稲を見つけました。安渡地区は漁師町で、水田はほとんどありません。どこからか流れ着いたのでしょうか。潮をかぶって弱々しそうでしたが、「安渡産大槌復興米」と名付けられて大事に育てられ、2年後の2013年秋には250キロの精米が収穫されました。コメの品種は鑑定の結果、ひとめぼれであることもわかりました。

商品化とともに、「門外不出」とされたこの種もみが大阪府富田林市のボランティアに贈られ、大阪でも育てられようとしています。この2月、1キロの種もみが、遠野まごころネットから大槌町を中心に復興を支援している大阪府議の■■■■さんに寄贈されました。■■■■さんは「震災を風化させてはならない。『大槌安渡ひとめぼれ』をそのシンボルに」と、譲り受けを申し出ました。種もみは、その後、■■■■さんからJA大阪南（大阪府富田林市）に託され、来春には田植えされます。

「奇跡のコメ」が大きく羽ばたこうとしています。

「大槌安渡ひとめぼれ」についての問い合わせは、「NPO法人遠野まごころネット」（0198-62-1001）へ。